

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自尊・自浄・自助の三つの要素を育てることで、生徒一人ひとりを自他に対するよいリーダーとして育成し、「望ましい自己の人生」を獲得する支援を行なう学校づくりをめざす。

その結果として、心の面でも学びの面でも「三国丘の定時制なら大丈夫」と評価・信頼される学校となることを企図する。

◎自尊 …… 自らをかけがえのない存在として大切に思う

◎自浄 …… 自らを正しく、清らかな存在にしようと努める

◎自助 …… 自らを支え、助ける

2 中期的目標

1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）

(1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。

ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科では習熟度別授業を実施し、モジュールを組み入れ、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。

イ ICT 機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。

※学校教育自己診断の生徒の授業満足度(平成 26 年度 71%、27 年度 75%)を毎年引き上げ、平成 30 年度までには 80%とする。

※基礎学力診断テストを、1 年 3 教科で、原則 4 月と次年度 2 月に、同じレベル内容で実施し、生徒の学力伸長度を測定する。

伸長度は、平成 27 年度は 36%であり、35%の伸長度を維持する。

(2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供・理解させる。

ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及びキャリア教育講演会を実施する。

イ 3 年間または 4 年間を見通したキャリア教育を推進し、平成 30 年度には若年無業者（卒業者総数に対する割合）10%未満とする。

(3) 進路指導體制の強化により、進路実績の向上をめざす。

ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた指導體制により、確実な進路実現を図る。

※平成 30 年度までに、学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（卒業者総数に対する割合）90%をめざす。

2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）

(1) 「社会で正しく生きる」ために、法令を守り、他者の人権を尊重する姿勢を身につけさせる。

ア 法と社会と自身の関係を理解できるよう、各年次で弁護士等を講師とした法教育を実施する。

※平成 27 年度は各年次ごとの実施形態を見直した。平成 30 年度までには各年次 2 回の実施をめざす。

イ 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。

※平成 30 年度までには、地域清掃活動、地元保育園等との交流を年間 5 回以上の実施を定着させる。

(2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることに気づかせ、命を大切にすることを最優先とした教育を行なう。

ア 「命」等をテーマに人権研修を行う。

※平成 27 年度は人権教育推進委員会を中心として、安全防災教育や人命尊重のテーマで計 4 回実施したが、人権教育の取り組みのなかに、研修を体系的に組み入れ、平成 30 年度までに計 6 回の研修を定着させる。

(3) 体育祭や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。

ア・総合学習「ふるさと塚探検隊」の参加率（平成 27 年度 72%）を、年々参加率を上げ平成 30 年度には 75%以上をめざし、その学びをとおして郷土愛を育む。

イ・体育祭、文化祭などの参加率（平成 27 年度 83%）を、年々参加率を上げ平成 30 年度には 90%以上をめざし、行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。

(4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。

ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。

イ カウンセリングマインドの育成や、心療内科等に対する理解促進のために、教職員向け課題研修やケース会議を充実させる。

※27 年度は教職員研修を 2 回、ケース会議を 5 回実施した。平成 30 年度には研修の年 5 回以上の実施とケース会議の質的充実を図る。

※年度末の進級・卒業率（3 年卒業者数＋4 年進級者数／入学者数）を毎年引き上げ、平成 30 年度までに 60%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】・生徒の「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率は 71%と昨年度から 4 ポイント低下したが、「教え方を工夫している先生が多い」の肯定率は 79%と 1 ポイント上昇した。また「学校に行くのが楽しい」は 76%で大きな変化はなかった。研究授業・教員相互の授業見学や教科での研究協議を通して、わかりやすく楽しい授業を実践し、生徒の高評価につなげていく。次年度も生徒の授業アンケートを前後期 2 回実施し教員本人の振り返り、教科での研究協議や研究授業につなげ、前期から後期への評価結果を向上させる。</p> <p>【生徒指導】・生徒の「学校生活について先生の指導は納得できる」の肯定率は 71%で 6 ポイント低下した。生徒の「担任以外にも～相談できる先生がいる」の肯定率は 63%で前年より 1 ポイント向上した。多様な生活背景をもつ一人ひとりの生徒に丁寧に対応していく必要がある。今後も個別対応をしっかりとするとともに教育相談機能をさらに高めていきたい。</p> <p>【学校運営】・課題である保護者の「授業参観や学校行事に参加」が 37%と昨年から 26 ポイントも低下し極めて低い。一方、「先生は子どものことを理解」は 95%と昨年から 13%も上昇し高評価となっている。保護者の「学校は教育情報について提供の努力」や「先生に相談」等は 79%の肯定率で変化はない。今後は保護者の学校及び生徒への真の関心度を図り、情報提供の方法も含め、検討したい。</p>	<p>第 1 回 (7/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・保健指導で成果が出ており、個別指導に力を入れていることは評価できる。 ・15 分×週 3 回の 0 限科目は、区切りがつき効果的である。 ・漢字や秘書検定など検定試験は、資格取得が自信につながり自己肯定感を高める。 ・地域清掃、保育所訪問など教師と一体となった実体験のプログラムは素晴らしい。 ・不登校経験のある者が多く入学しているが、高い割合で通学できており評価できる。 ・給食が休止となっていることは、残念である。 ・教育相談や日本語指導に引き続き力を入れていただきたい。 ・生徒と保護者の関係性が薄くなり、その分学校の負担が増えている。 <p>第 2 回 (11/19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団になじめない生徒がおり、一人ひとりの面倒を見るのが大切。 ・小中学校で不登校の生徒の中には、先生に対して不信感を抱いている生徒がいる。少しずつ不信感を取り除くために、学校で自尊感情を高める行事等の取組が必要。 ・教員が生徒との人間関係を積極的に作っていくことが必要。 ・生徒は自分を見てくれること求めている。社会性が未熟であり、個別にメリハリを付けて指導することが必要。 ・バーチャルの世界ではなく、実体験を積むことが大切。 ・中学での不登校生徒に、安易に通信制を選択するのではなく、定時制の良さを広める。 <p>第 3 回 (1/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の復活は素晴らしい。 ・学校自己診断で保護者の回収率を向上させるために、保護者の参加可能な進路の参加行事を増やし、学校への関心を高める。 ・1 年から進路保障につながる「ベーシック教養」は、良い取組である。 ・授業中のスマホ指導は、生徒の評価が下がっても進めたほうが良い。何のために学校に来ているのか考えさせる。 ・H29 計画のめざす学校像のリニューアルはよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力伸長と進路実現 (本校のキャリア教育の確立)	<p>(1) 学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用</p> <p>イ 学ぶ意欲を引き出す</p> <p>ウ わかりやすく楽しい授業をめざして</p> <p>エ 基礎学力の定着・向上</p> <p>オ 校務処理システムの安定的な運用</p> <p>(2) 年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制 イ キャリア教育の推進</p> <p>(3) 進路実績の向上 ア 広報活動</p> <p>イ 応募前職場見学の実施</p> <p>ウ 個別指導体制</p> <p>エ 卒業予定者の若年無業者の減少</p>	<p>(1) ア 授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートの活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議の実施。</p> <p>イ 多岐にわたる総合講座等を実施し、資格取得を支援し、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。</p> <p>ウ わかりやすく楽しい授業をめざし、ICT機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。</p> <p>エ 英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。</p> <p>オ 校務処理システムの安定的な運用を図り、時間短縮することで、各教員が生徒と関わる時間を確保する。</p> <p>(2) ア 進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。</p> <p>イ 多様な生徒のニーズに応えるべく、キャリア教育講演会・進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。</p> <p>(3) ア 積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする</p> <p>イ 学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。</p> <p>ウ 進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。</p> <p>エ ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。</p>	<p>(1) ア 経験年数の少ない教員は年1回研究授業。</p> <p>・各教科の研究協議の定期実施(年間3回)</p> <p>・授業アンケートを年2回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。</p> <p>イ 漢検等の技能審査による単位認定者を増やす。(H27年度0名)</p> <p>ウ 生徒の自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率(H27年度75%)を77%に。</p> <p>・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率(H27年度78%)を80%に。</p> <p>エ 基礎学力診断テスト(1年英・数・国)の4月から2月での伸長度35%増とする。</p> <p>オ 各教員が生徒と関わる時間を増やし、生徒の自己診断「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定率(H27年度82%)を80%以上に。</p> <p>(2) ア 進路・担任合同会議を定期的(年間3回以上)に行う。</p> <p>イ 1・2年次生への進路説明会を年3回、卒業学年への進路説明会を年2回実施。</p> <p>(3) ア 卒業生の進路先などの毎年新たな広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。</p> <p>・学校HPの月2回の更新。</p> <p>イ 就職希望者全員に応募前職場見学を実施</p> <p>ウ 就職・進学希望者全員への面談の実施</p> <p>・履歴書講座の実施</p> <p>エ 若年無業者(進学・就職等を希望しない生徒を除く)の割合(H27年度0%)10%未満を維持。</p>	<p>(1) ア 12月初任者による公開研究授業では他校から参加者もあり、初任者の授業力向上に繋がった。1月:6年目の教員による研究授業ではICT機器を効果的に利用し、生徒にとってわかりやすい授業を行った。(○)</p> <p>・研究協議を3回実施(○)</p> <p>・個人・教科の振り返りシートを前期と後期に提出し、各教員が授業改善に取組み、向上の見られた教員もいたが、前後期の平均は変わらなかった。(△)</p> <p>イ 漢検3級1名、秘書検定3級1名、介護職員初任者研修1名取得。(○)</p> <p>ウ 生徒の自己診断「授業はわかりやすく～」の肯定率は71%と4ポイント低下。(△)・「教え方に工夫～」の肯定率は79%と1ポイント上昇。(△)次年度は各教員が生徒の授業への主体的に取り組む工夫をすることで肯定率を上げたい。</p> <p>エ 数・英は習熟度別クラスを実施し伸長度は25.5%、23.9%であったが、国はそれがなくまた4月の平均点が85点と高かったため伸長度は1.6%であった(△)</p> <p>オ 「生徒の意見～」の81%で8割の肯定率は維持。今後も丁寧な指導を心がける。(○)</p> <p>(2) ア 進路・担任合同会議6回実施。生徒(特に卒業予定生)の情報共有ができた。(◎)</p> <p>イ 進路説明会:1・2年次生へは6・12・2月に実施。卒業学年へは4・7月に実施。(○)</p> <p>追記・キャリア教育:6月(12年次 進路指導の概要 34年次 求人票の見方、就職活動のルール)12月(123(定)年次 GATB 3(通)4年次 働く時のルール(労働法))1月(1年次 卒業生講話 2年次 マネーコネクション 34年次 働くときの心構え)を実施した。キャリア教育を進路説明会と組み合わせることで、スモールステップで生徒の進路意識を向上させた。(○)</p> <p>(3) ア 学校パンフレット及びはさみ込み資料を更新。堺東駅にポスター掲示。(○)複数回の学校説明会により本校の理解を深める。</p> <p>・HPを月2回以上適時更新中。(◎)外部に本校の取組をアピール。</p> <p>イ 学校紹介就職希望者全員(延べ30名)が応募前見学に参加。複数社に行き、比較検討を重ねることができた。(○)</p> <p>ウ 就職・進学希望者全員と面談を実施。個々の事情に応じた相談、情報提供を行い、生徒が納得した状態で進路指導ができた。(○)</p> <p>・生徒の意欲向上に効果あり。(○)</p> <p>エ 学校幹旋での就職希望11名の就職率100%。若年無業者は0名となった。(◎)</p>

<p>2 心の教育の充実 (モラル教育に重点を置いた教育体制の構築)</p>	<p>(1) 法令を守り、他者の人権を尊重する姿勢の育成 ア 法教育</p> <p>イ 生徒会中心にボランティア活動の実施 ウ 地域交流の推進</p> <p>(2) 人命尊重の教育の推進 ア 「命」等をテーマとする研修</p> <p>イ 安全教育の実施</p> <p>ウ 健康への関心を高める</p> <p>エ 美化意識を高める</p> <p>オ 健康診断受検率の向上</p> <p>カ う歯0をめざす</p> <p>(3) 各種行事の参加により自尊心を高める ア 郷土愛を育む</p> <p>イ 仲間との交流により豊かな心を育む</p> <p>(4) 教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 三国丘(定)の存在を地域にアピール イ 支援を必要とする生徒の情報共有 ウ 外部機関との連携強化 エ 日本語支援の必要な生徒の困り感を解消 オ 相談機関との連携 カ ケース会議の充実 キ 学校課題解決に向けて</p> <p>ク 相談体制の強化</p> <p>ケ 進級・卒業率向上をめざして</p>	<p>(1) ア・各年次で弁護士等を講師とした法教育を実施。</p> <p>イ・生徒会中心に、地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。</p> <p>ウ・地元保育園との交流活動を計画・実施。</p> <p>(2) ア・人権教育推進委員会を核に「命」等をテーマに研修を行う。</p> <p>イ・生徒指導部中心に、安全教育を計画的に進める。</p> <p>ウ・保健部中心に、生徒の健康への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。</p> <p>エ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。</p> <p>オ・病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を上げる。</p> <p>カ・う歯0をめざし、ブラッシング講習を実施。</p> <p>(3) ア・総合学習「ふるさと堺探検隊」を通じて郷土愛を育み、地域を知る。</p> <p>イ・体育祭、文化祭などの行事を通して仲間との交流、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。</p> <p>(4) ア・引きこもり、不登校、ネグレクトなど支援を必要とする生徒に居場所・三国丘(定)の存在を地域にアピールすべく広報を強化。 イ・支援を必要とする生徒の情報共有し情報交換を行うため、SCを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。 ウ・帝塚山学院大学大学院との連携し、ハートケアサポーター機能を高める。 エ・ピア日本語と連携して、日本語支援の必要な生徒の困り感を低減する。 オ・堺市の相談機関等との連携を継続強化する。 カ・生徒の心のケア等必要な支援を協議するためケース会議の質的充実を図る。 キ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。</p> <p>ク・担任、SC、教育相談委員会の連携システムを強化確立し、生徒が相談しやすい環境づくりを行う。 ケ・個々の生徒の支援を通じて、学校への定着を図り、卒業を支援する。</p>	<p>(1) ア・各年次に応じて法教育研修を実施し、生徒の事後アンケートで肯定的評価 80%めざす。</p> <p>イ・生徒会中心に、地域清掃ボランティアの生徒参加者 1日 10名をめざし、年 2回実施。</p> <p>ウ・地元の保育園との交流を年末に 1回実施。</p> <p>(2) ア・人権教育等で「命」等をテーマに研修会を実施。SNS 関連の情報モラルの講習会は必ず行う。</p> <p>イ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行う。生徒アンケートの肯定的評価 80%以上めざす。</p> <p>ウ・生徒保健委員会を学校行事時に開催。前年度から増やした年 4回実施を維持する。</p> <p>エ・年間 2回の大清掃</p> <p>オ・健康診断の受検率の 90%以上を維持する。</p> <p>カ・歯科医、歯科衛生士によるブラッシング講習を実施し、生徒の治療への興味関心を高め、治療完了者(H27 年度 66%)60%以上をめざす</p> <p>(3) ア・生徒の行事参加率 (H27 年度 72%) の 70%以上の維持をめざす。</p> <p>イ・生徒の行事参加率 (H27 年度体育祭 80%、文化祭 83%) の 80%以上の維持をめざす。 ・生徒の自己診断「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率(H27 年度各 80%、86%)の 80%以上の維持をめざす。</p> <p>(4) ア・公共機関(行政機関、医療機関等)の受付等に三国丘(定)の学校案内等を設置。</p> <p>イ・教育相談委員会を月 1回以上開催。</p> <p>ウ・臨床心理士候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年 30 回来校し生徒支援にあたる。</p> <p>エ・日本語支援の教育活動をすすめて、当該生徒の進級・卒業をめざす。</p> <p>オ・各連携会議の年間 3回以上の実施</p> <p>カ・ケース会議は支援を必要とする生徒の実情に合わせて開催。(月に 1回をめぐり)</p> <p>キ・教職員向け研修を年間 3回以上実施。</p> <p>ク・生徒の自己診断「担任以外で保健室・相談室に相談できる先生がいる」の肯定率(H27 年度 62%)を前年度より 3%向上させる。 ケ・年度末の進級・卒業率(3年卒業生数+4年進級者数/入学者数)を前年度の上昇率 3~4%(平成 26 年度 48%、平成 27 年度 66%)</p>	<p>(1) ア・1月 6名の弁護士が来校し交通事故、少年問題、多重債務、刑事裁判と裁判員裁判をテーマに実施。ためになった=74%、今後の役に立つ=82%の評価。担当した弁護士により生徒の評価にばらつきがあった。(△)</p> <p>イ・前期は 17名が参加。後期は生徒 10名が参加。地域の方からお褒めいただき生徒の自己有用感が高まった。(○)</p> <p>ウ・7月生徒会執行部と有志生徒が 11名参加。保育園児との暖かい交流ができた(○)。</p> <p>(2) ア・DeNA 講師の「インターネット、SNS の利用・危険性」では肯定的評価は 85%。・2回の防災教育を通して災害時、あわてず適切な行動をとり「命」を守る大切さを養わせた。・12 月人権講演会「わたしが出会った定時制の生徒たちのこと、学校に行かなかった子どもたちのこと」では理解度は 81%。・12 月健康教育では選択 1. 妊娠・出産については 87%、選択 2. 健康については 83%と高評価を得た。(○)</p> <p>イ・7月地元警察署の警察官による「交通安全講習」で事故に遭わない、起きない心構えを学ぶ。肯定的評価は 83%。1月薬物乱用防止教育は『絶対に使用しない』と回答した生徒は 86.1%。(○)</p> <p>ウ・生徒保健委員会を学校行事時に年 4回開催。ゴミ箱作りや文化祭の衛生面の指導により、生徒の美化意識を養い、マナー向上に役立った。(○)</p> <p>エ・年 2回の大清掃では決められた時間で実施することで、美化意識、マナー向上に役立った。(○)</p> <p>オ・生徒個人への受検指導により二計測受検率 98.6%、全ての健康診断受検率 95.2%となった。(◎) 今後も丁寧な指導を行う。</p> <p>カ・ブラッシング講習での生徒の肯定的意見 91%。今年度の治療完了者は 61%で生徒の治療への意識を高めた。(○)</p> <p>(3) ア・10/22 土曜日にもかかわらず生徒の参加率は 75%になり、中期的目標にも到達。生徒は堺市博物館の埴輪や武器の復元、ゆるキャラ、自転車博物館の体験コーナーを楽しみ、地域理解が進んだ。(○)</p> <p>イ・①新入生歓迎会=90.1%、②体育祭=82.2%、③文化祭=91.5%、④卒業生を送る会=90.6% ※今年度、高参加率で実施できた(◎)。 ・自己診断「体育祭は楽しく～」は 76.1%、「文化祭は楽しく～」が 79.6%。(△)生徒の主体性を向上させる取組をしたい。</p> <p>(4) ア・ハローワーク堺に学校案内 50部の設置を依頼。企業説明会時に配布していただいた。医療機関には設置できなかった。(△)</p> <p>イ・全体会、小委員会を含め、現在月 1回以上の頻度で実施。(○)</p> <p>ウ・追加支援もあり複数の大学院生が年 100回を超え来校し、支援が必要な生徒に対し担当教員と協調し丁寧にサポート。(◎)</p> <p>エ・日本語以外を母語とする 1年生女性に対し、年間を通じて国語と社会で抽出授業を行った。各教科丁寧な指導を実施し、成績も高評価を修め進級することができた。(◎)</p> <p>オ・生徒支援のため各機関と連携、直接話し合いが 7回、電話での情報交換(毎月 1回以上)や該当生徒担任との会議を実施。(○)</p> <p>カ・上記イ.と関連、生徒理解を担当、教科担当教職員で共有している。生徒の実情にあわせてケース会議を 7回開催した。(○)</p> <p>キ・「発達障害について」、「夏季人権フェルトワーク」、「人権研修:大正区と沖繩(私)」、「AED 講習」 「景気動向と学卒求人」 「み・らいずとの連携」と年 6回実施し、教員の専門性を高めた。(◎)</p> <p>ク・「担任以外で～」は 63%で前年より 1ポイント向上。(△)教育相談機能を更に充実させて生徒の自己有用感を高める努力を行う。</p> <p>ケ・年度末の進級・卒業率を増やすべく、昨年度効果がみられた特別指導を引き続き実施し、生徒に最後まであきらめさせない指導を行った。進級・卒業率が 62%となり昨年度並みの結果となった。(○)</p>
--	---	--	---	---